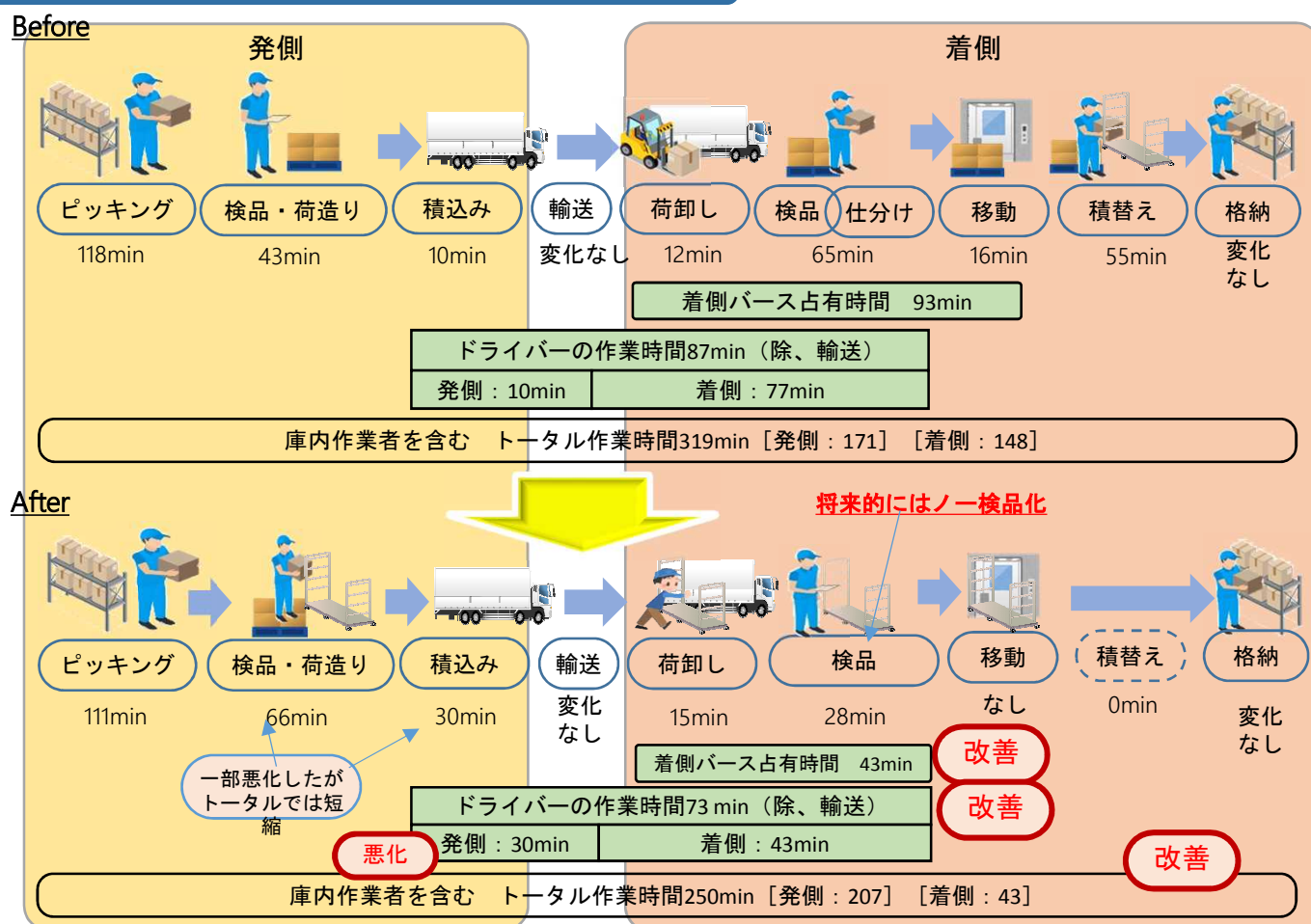


荷主と物流事業者連携によるドライバー作業時間短縮 滋賀県

1. 実施者の概要

- 荷主企業: サンスター、ホーユー(日用品製造販売)、あらた(各種製品卸売)
発荷主はいずれも日用品の製造販売業であり、着荷主の物流センターに商品を納品している。
- 運送事業者: 名鉄運輸、豊明花き、トランコム他
名鉄運輸は発荷主両社の輸送の元請けであり、発荷主の物流センターを受託運営している立場を兼ねる。豊明花き、トランコムは実運送を担う。
- 荷種: 日用品

2. 事業概要



- ・ 着荷主における検品・仕分け作業により、ドライバーの作業時間が長時間化し、バースの混雑も発生していた。
- ・ そこで荷主連携により台車による納品方式を実施。その結果、ドライバーの作業時間、作業負荷、さらには庫内作業者の作業時間等が削減された。

3. 課題

- ① 着荷主の物流センターで、検品・仕分け等の作業が発生している。その間、ドライバーが立ち会うため、ドライバーの拘束時間の増大に繋がっている。
- ② 上述の検品等の作業が狭いバース上で行われるため、バースの混雑を来し、結果的に車両の効率的な回転を妨げている。
- ③ 庫内作業者の作業時間の増大、作業負荷の増大も問題となっている。

4. 事業内容

- ① 小ロット商品について、台車納品を実施する。台車を載せたままバース上に荷卸しを行い、台車上でそのまま検品し、保管エリアにそのまま移動することで、バース上の混雑が緩和し、作業時間の短縮が可能となる。
- ② 台車納品では積載効率の低下が課題であるが、高積載が可能な、花き輸送等に用いられる鉄及びアルミ製主体の台車を用いて、効率的な輸送を行う。

5. 結果

- ① 着側センターでのバース上の占有時間を、93分から43分へ短縮することができた。その結果、効率的なバース運用が可能となった。
- ② 着側センターでの作業時間を短縮できたことから、ドライバーの作業時間（発側、着側のトータル）を87分から73分へと短縮することができた。また、積替えの作業負荷も削減された。
- ③ 庫内作業者の作業時間（発側、着側のトータル）についても、319分から250分へと短縮することができた。

6. 荷主企業のメリット

- ① 着荷主にとっては、検品・仕分け及び積替えの作業時間が短縮でき、バースの利用効率も改善された。
- ② ドライバーの作業時間が短縮され、拘束時間の短縮にも繋がったことは、運送委託元である荷主にとってメリットであった。また、輸送の生産性向上の効果も得られた。

7. 結果に結びついたポイント

- ① 発荷主、着荷主、物流事業者という、サプライチェーンをまたぐ関連当事者の協力が必要であったが、特に着荷主が、納品作業の効率化について高い問題意識を有していたこと。
- ② 納品方法の変更に伴う課題を、荷主と物流事業者が協力してクリアしたこと。